



半 田 市
まち・ひと・しごと
創 生 総 合 戦 略



2015 年 10 月

半 田 市

目 次

1. はじめに	1
2. 基本的な考え方	1
(1) 国の総合戦略との関係	1
(2) 対象期間	2
(3) 計画のフォローアップ	2
3. 目指すべき将来の方向と人口の将来展望	2
(1) 目指すべき将来の方向	2
(2) 人口の将来展望	3
4. 基本目標	4
5. 基本的方向と施策	5

1. はじめに

我が国が今後、本格的な人口減少社会や超高齢化社会を迎えることは確実であり、特に地方では人口減少を契機に、「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラルに陥る可能性が指摘されています。

「半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）は、「半田市人口ビジョン」を踏まえ、人口減少への対応や地域経済の活性化に向けた今後5か年の基本目標と本市の特色や地域資源を活かした施策を定め、本市が将来にわたって「住みたいまち」、「訪れたいまち」とされるために策定しました。

2. 基本的な考え方

（1）国の総合戦略との関係

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方や政策5原則などを踏まえ、本市の総合戦略として、雇用の創出や定住の促進などによって人口の減少に歯止めをかけ、まちが元気になる魅力的な地域づくりの施策を示します。また、交流人口を増やす取組を進め、様々な地域の人が集い、活気にあふれる地域づくりのための施策を示します。

◆国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方と政策5原則

1 基本的な考え方

（1）人口減少と地域経済縮小の克服

- ①東京一極集中を是正する。
- ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する。
- ③地域の特性に即して地域課題を解決する。

（2）まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

①しごとの創生

- ・若い世代が安心して働ける「相応の賃金、安定した雇用形態、やりがいのあるしごと」という「雇用の質」を重視した取組が重要。

②ひとの創生

- ・地方への新しい人の流れをつくるため、若者の地方での就労を促すとともに、地方への移住・定着を促進する。
- ・安心して結婚・出産・子育てができるよう、切れ目ない支援を実現する。

③まちの創生

- ・地方で安心して暮らせるよう、中山間地域等、地方都市、大都市圏等の各地域の特性に即して課題を解決する。

2 政策5原則

(1) 自立性

構造的な問題に対処し、地方公共団体、民間事業者、個人等の自立につながる。

(2) 将来性

地方が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組むことを支援する。

(3) 地域性

各地域の実態に合った施策を支援。国は支援の受け手側の視点に立って支援。

(4) 直接性

最大限の成果をあげるため、直接的に支援する施策を集中的に実施する。

(5) 結果重視

PDCA メカニズムの下、具体的な数値目標を設定し、効果検証と改善を実施する。

(2) 対象期間

総合戦略の対象期間は、2015 年度（平成 27 年度）から 2019 年度（平成 31 年度）までの 5 年間とします。

(3) 計画のフォローアップ

総合戦略の策定後は、基本目標における数値目標や施策ごとに設定した重要業績評価指標 (KPI) に基づき、半田市まち・ひと・しごと創生有識者会議などで成果を検証します。そして検証結果や社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて総合戦略の見直しを行います。

3. 目指すべき将来の方向と人口の将来展望

(1) 目指すべき将来の方向

国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（以下「国の長期ビジョン」という。）では、「①『東京一極集中』を是正する」、「②国民の希望の実現に全力を注ぐ」、「③若い世代の就労・結婚・子育ての希望に応える」という 3 つの基本的視点が示されており、目指すべき将来の方向として、「将来にわたって『活力ある日本社会』を維持すること」が掲げられています。さらに、地方創生がもたらす日本社会の姿として、「自らの地域資源を活用した、多様な地域社会の形成を目指す」、「外部との積極的なつながりにより、新たな視点から活性化を図る」、「地方創生が実現すれば、地方が先行して若返る」などが描かれています。

こうした国の長期ビジョンを踏まえ、出生率を上昇させ自然増を図ると同時に、本市においては、若い世代が流入傾向であったことから、流入確保策や転出抑制策を図ることにより、人口減少に歯止めをかけるとともに、調和の取れた人口構造としていくことが期待できます。これらの実現のため、主に次の視点から国、愛知県をはじめ関係機関・企業等と連携して積極的かつ速やかに効果的な施策に取り組んでいきます。

■人口流入の確保【社会増の確保】

- ・産業の振興と新たな企業の誘致を図ることにより質の高い雇用を確保する。
- ・今後の高い成長性が期待できる観光産業の活性化を図る。
- ・仕事や住まいの総合的な情報提供などの支援を通じてUIJターンを促進させる。

■人口流出の抑制【社会減の抑制】

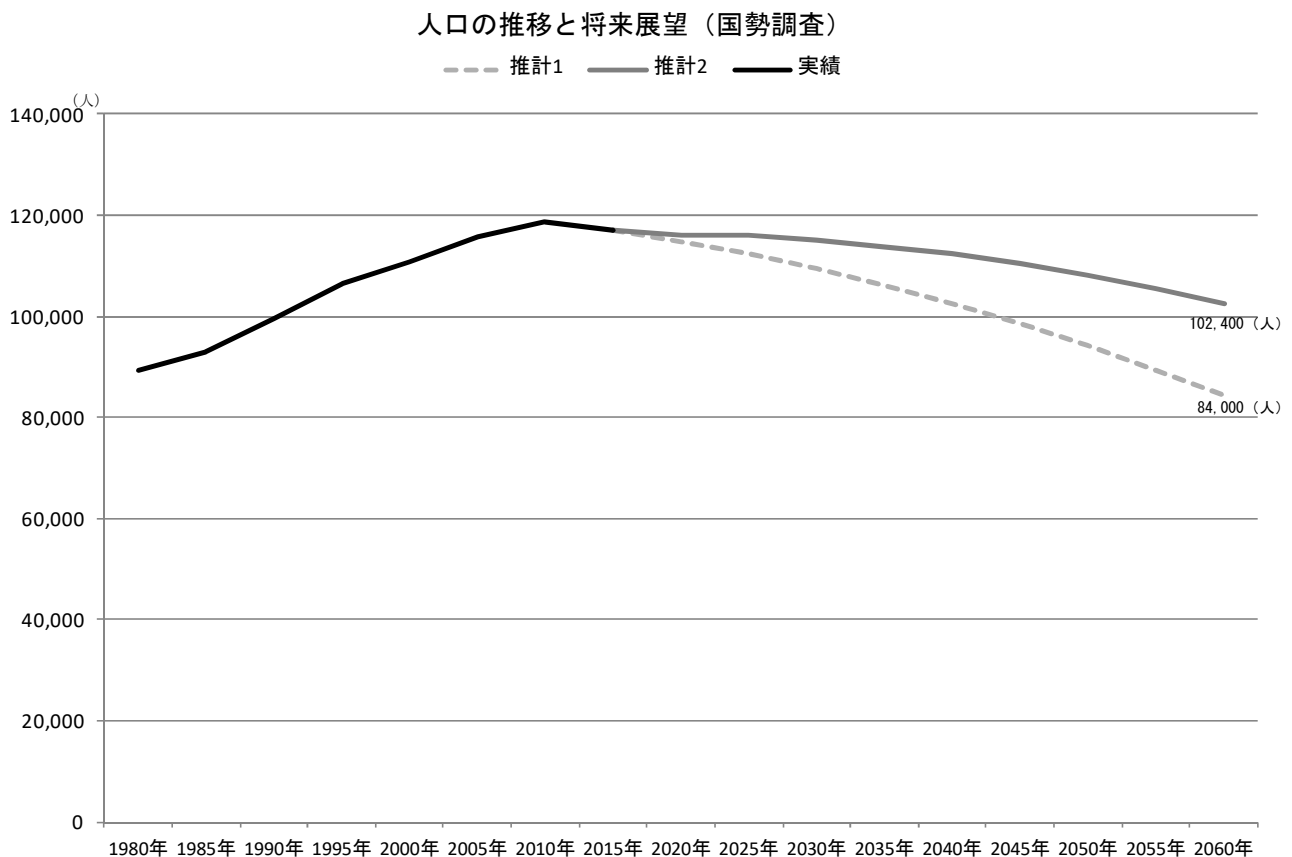
- ・地元で暮らしたいという希望を実現するために地元の学校と企業の連携を促進し、地元での就職率を高める。
- ・暮らしの利便性を維持するとともに、安心・安全で快適な生活環境づくりに向けた施策を推進する。

■若い世代の就労や結婚、子育て環境の改善・支援【自然増の確保】

- ・出産に対する若い世代の希望をかなえるための子育て支援を充実する。
- ・ワークライフバランスや仕事と家庭の両立しやすい環境の整備を推進する。

（２）人口の将来展望

近年の本市の人口動態から将来人口を推計すると、2060年には84,000人に減少することが見込まれます（推計1）。しかし、目指すべき将来の方向に沿った今後の施策の効果により、2060年の人口として10万人程度を確保します（推計2）。



半田市人口ビジョン

4. 基本目標

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が定める政策分野を勘案しつつ、本市の実情に合わせ、次のように基本目標を設定します。

＜基本目標①＞産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

＜基本目標②＞市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる

＜基本目標③＞若い世代に選ばれる「まち」をつくる

＜基本目標④＞安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【参考】国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の政策の基本目標

＜基本目標①＞地方における安定した雇用を創出する

◇2020年までの5年間の累計で地方に30万人分の若者向け雇用を創出

＜基本目標②＞地方への新しいひとの流れをつくる

◇2020年に東京圏から地方への転出を4万人増、地方から東京圏への転入を6万人減少させ、東京圏から地方の転出入を均衡

＜基本目標③＞若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

◇2020年に結婚希望実績指標を80%、夫婦子ども数予定実績指標を95%に向上

＜基本目標④＞時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

◇「小さな拠点」の整備や「地域連携」を推進する。目標数値は、地方版総合戦略の状況を踏まえ設定

5. 基本的方向と施策

【基本目標】

1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

数値目標	基準値(現状)	目標値
有効求人倍率	1.25倍(2014年度)	1.3倍(2019年度)
企業立地件数(2014年度以降の累計)	3件(2014年度)	6件(2019年度)
製造業従業者数	13,497人(2014年)	15,900人(2019年)

※企業立地件数とは、工場立地法に該当する製造業、電気・ガス・熱供給業者で敷地面積 9,000 ㎡以上又は建築面積 3,000 ㎡以上の規模の新設及び増築工場

【基本的方向】

①経営の安定化や新規の事業展開、創業に対する支援をし、企業の競争力向上を目指すとともに、賑わいの創出を図るため、商業の活性化に取り組みます。

②市内に企業が進出しやすい環境を整え、誘致活動を強化することで地域経済の活性化と雇用の創出をします。

③農産物のブランド化を推進し、付加価値の向上を図るとともに、持続的な農業経営基盤の構築を目指します。

④求人と求職のマッチングに取り組み、若い世代を中心に就労を支援します。

【施策Ⅰ】競争力ある企業活動に向けた支援と持続可能な商業の振興

①企業経営の支援

- 新規の事業展開や創業に際しての補助制度や相談などの支援を行います。
- 中小企業の経営者に対し、研修会や実践的な経営指導・相談などの支援をするとともに、運転資金や設備投資にかかる必要な支援策を講じ、経営の安定化を図ります。
- 商工会議所や金融機関と連携し、企業の活性化と経営の支援を行います。

②企業誘致の推進

- 次代を担う新産業・先端産業等を中心とした企業が進出しやすい環境を整えます。
- 企業が進出を検討する際に必要となる用地情報や各種の優遇制度の情報を一元化し、情報発信します。
- 行政と経済団体が連携し、企業誘致に取り組みます。

③持続可能な商業の振興

- 魅力ある個店づくりに取り組む商店経営者や商店街に対し、必要な支援を行います。
- 空き地・空き店舗の活用などの環境整備を推進し、中心市街地の魅力向上と商業の活性化を図ります。
- 鉄道駅周辺では日常生活に密着した地域商業の集積を支援し、賑わいの創出を図ります。

〔重要業績評価指標（KPI）〕

- 起業・会社設立支援補助金利用件数（件／年）
基準値（2014年度）7件　／目標（2019年度）10件
- 商業施設助成事業補助金利用件数（件／年）
基準値（2014年度）9件　／目標（2019年度）15件
- 中心市街地における歩行者・自転車通行量（人／日）
基準値（2014年度）7,311人／目標（2019年度）7,900人

【施策Ⅱ】農産物のブランド化と持続的な農業経営基盤の構築

①地域ブランドの強化と創出

- 効果的な情報発信などにより地域ブランドの認知度向上を図るとともに、農商工の連携により新しい地域ブランドの創出を支援します。
- 高い安全性と品質を確保するとともに、生産者と消費者の距離を近づけ、地産地消を推進します。

②農業経営基盤の強化

- グローバル化が進展する中で事業者が柔軟に対応できるよう経営基盤の構築を支援します。
- 農業用水の安定確保に努めるとともに、優良農地の保全や耕作放棄地の解消などの基盤整備を推進します。

③担い手の育成

- 新規就農希望者に対する支援や後継者の育成支援などの取り組みを推進し、持続的な農業の実現を図ります。

〔重要業績評価指標（KPI）〕

- | | |
|------------------|------------------------------------|
| ○認定農業者数 | 基準値（2014年度）63人／目標（2019年度）78人 |
| ○耕作放棄地面積（遊休農地面積） | 基準値（2014年度）28.4ha／目標（2019年度）21.4ha |

【施策Ⅲ】就労の支援と勤労者福祉

①就労支援

- 関係機関と連携し、若い世代の就労支援のための研修や相談事業などを行います。
- 地元の高校や大学と地元企業のマッチングを推進し、地元への就職を促進します。

②勤労者福祉

- 市内の事業所で働く勤労者同士の交流を促進します。
- 知多地区勤労者福祉サービスセンターが行うスポーツ、レクリエーションの福利厚生事業に対して支援を行います。

[重要業績評価指標（KPI）]

- Uターン者数（人／年） ※日本人のみ

基準値（2014年度）909人 ／目標（2019年度）1,000人

- 半田市と商工会議所が主催する若者就職支援イベントの参加者数（人／年）

基準値（2014年度）254人 ／目標（2019年度）400人

【基本目標】

2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる

数値目標	基準値(現状)	目標値
観光入込客数(人／年)	93万人(2014年度)	148万人(2019年度)

【基本的方向】

①本市の歴史や文化に育まれた地域資源を活用した観光を振興し、交流人口の増加を促進します。

②市民が自分のまちについて学び、来訪客へのおもてなしの心の醸成を図るなど、市民と市外の人々が積極的に交流するまちを目指します。

【施策Ⅰ】地域資源を活用した観光の振興

①観光資源の充実と観光客の満足度向上

- 山車・蔵・南吉・赤レンガなどの歴史的な地域資源を磨き上げ、魅力の向上を図ります。
- 地域資源を活用した飲食・みやげ物販売を充実し、半田の魅力を創出します。
- 外国人観光客等が市内観光を快適に行えるよう環境を整備します。
- 文化・歴史遺産の掘り起こしを行い、新たな魅力の創出を図ります。

②回遊性の向上

- 点在するまちの魅力を歴史や文化のストーリー性を持たせるとともに、周遊ルートの整備などにより、回遊性向上を図り、観光客の滞在時間の増加を促進します。
- 自家用車や徒歩だけでなく、レンタサイクルなど市内の観光施設間の移動手段の充実を図ります。

③情報発信力の強化

- 魅力ある観光資源を効果的に情報発信するための観光プロモーションを推進し、集客力の向上を図ります。
- 観光協会など関係機関との連携による情報発信体制を構築し、情報発信力の強化に努めます。

〔重要業績評価指標（KPI）〕

- 半田赤レンガ建物来館者数（人／年）

基準値 — ／目標（2019年度）340,000人

- レンタサイクルの利用回数（回／年）

基準値（2014年度）2,208回 ／目標（2019年度）3,300回

- 観光協会ホームページアクセス数（回／年）

基準値（2014年度）301,661回／目標（2019年度）600,000回

【施策Ⅱ】市民と観光客等の交流を促進

①市民によるおもてなし観光の推進

- まちのことを深く知り、ふるさとに愛着と誇りを持つことで来訪客へのおもてなしの心の醸成を図ります。また、質の高いおもてなしができる担い手を育成します。
- 市民と観光客が交流できる場の提供に努めます。

②住民間の交流の推進

- ゆかりのあるまちと住民レベルでの交流の活性化を図ります。

〔重要業績評価指標（KPI）〕

- はんだ醸すごはんを年間通して提供できる店舗数

基準値（2014 年度）5 店舗 ／ 目標（2019 年度）20 店舗

- ふるさと検定合格者数（2015 年度以降の累計）

基準値 — ／ 目標（2019 年度）500 人

【基本目標】

3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

数値目標	基準値(現状)	目標値
若い世代の転入者数	2,365人(2014年度)	2,500人(2019年度)
合計特殊出生率	1.43(2013年)	1.80(2019年)
理想とする子どもの人数がいるまたは持つ予定である若い世代(女性)の割合	67.7%(2015年度)	80%(2019年度)

※若い世代とは、39歳以下の人

【基本的方向】

①妊娠から出産、子育てまで切れ目のない支援により父母の不安や負担の軽減を図るとともに、仕事と子育ての両立を支援します。

②子どもたちが、まちの歴史や文化を理解し、ふるさとに愛着と誇りを持ち続けられるとともに、確かな学力を身につけ、豊かな心や健やかな体を育むための教育を推進します。

③若い世代が定住しやすい環境を整備します。

【施策Ⅰ】出産・子育てのしやすい環境の整備

①出産・子育てへの経済的応援

- だれもが安心して妊娠・出産できるよう妊産婦健康診査の公費負担や不妊治療に係る経費の一部を助成します。
- 第2子目以降の保育料無料化等や子どもの医療費助成など、子育てをがんばる家庭に対し、経済的な応援をします。

②子どもを産み育てるサポート体制の充実

- 父親や祖父母に出産や子育ての情報を提供し、家族が協力しあえるよう支援します。
- 妊娠中や子育てなどの不安に対し、情報提供や相談体制を充実するとともに、環境整備に努めます。
- 核家族でも安心して子育てができるよう地域社会全体で子育て支援を推進します。

③仕事と子育ての両立支援

- 企業、地域、家庭内で仕事と子育ての両立支援に対する意識啓発活動を推進します。
- 保育サービスの充実など、多様な働き方に対応した子育て支援を推進します。

〔重要業績評価指標（KPI）〕

- 保育所等の待機児童数（各年度4月1日時点）
基準値（2014年度）0人　／目標（2019年度）0人
- 放課後児童クラブ利用者数（人／年）
基準値（2014年度）558人　／目標（2019年度）750人

【施策Ⅱ】健やかな育ちと学びにより子どもの確かな成長を支援

①子どもの健康の確保

- 乳幼児健康診査を実施し、疾病等の早期発見・早期支援に努め、保護者が安心して育児できる環境を整えます。
- 気軽に相談できるかかりつけの医療機関や薬局を持つことを推進します。
- 関係機関と連携し定期予防接種を推進することで、伝染のおそれがある疾病の発生及びまん延予防に努めます。

②ふるさと半田を大切にせる教育の推進

- 山車・蔵・南吉・赤レンガなどの歴史的な地域資源を通して、まちの歴史や文化を理解・発見し、ふるさとに愛着と誇りを持てる教育を推進します。
- 地域社会全体が学校を核にしてつながり、学校と地域の絆を強めるための仕組みづくりを推進します。

③キャリア教育の推進と知徳体のバランス豊かな子どもの育成

- 3歳から15歳までの一貫したプログラムにしたがって、幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校が連携するとともに、地元の高校や大学、企業と交流を図りキャリア教育を推進します。
- わかる喜びや学ぶ意義を実感できる授業の工夫を図るとともに、すべての子どもに基礎・基本学力が身に付くようきめ細かい指導を推進します。
- いじめや不登校などの問題の解決、思いやりや感謝の気持ちを育てるため、道徳教育などの充実を図り、豊かな人間性を育む教育を推進します。
- 心身ともに健康な体をつくる生活習慣（食習慣、運動習慣、読書習慣）を確立するための取り組みを進めます。

〔重要業績評価指標（KPI）〕

- MR2種混合予防接種の接種率 ※MR2種とは、風しん及び麻疹
基準値（2014年度）97.5%／目標（2019年度）98%
- 半田市の住みやすいと思うところで教育環境がよいことを挙げた市民の割合
基準値（2015年度）6.1%／目標（2019年度）10%

【施策Ⅲ】若い世代の定住を促進

①居住しやすい環境の整備

- 子育てなどにおいて、家族で支え合うことができるよう多世代の同居や近居を促進します。
- 関係業界等と連携し、若い世代が望む住宅を取得しやすい環境づくりに努めます。

②まちのイメージの向上

- 特に若い世代をターゲットにまちの認知度とイメージを高めるための取り組みを総合的・戦略的に実施します。
- 子どもにまちの歴史や文化への理解を促し、将来にわたり、ふるさとへの愛着と誇りを持つように努めます。
- 地元の高校や大学、企業と連携し、まちのイメージ向上に取り組めます。

〔重要業績評価指標（KPI）〕

- これからも半田市に住み続けたいと思う市民の割合
基準値（2015年度）59.9％／目標（2019年度）75％
- 半田市に好意的なイメージを持っている転入者の割合
基準値（2015年度）39.6％／目標（2019年度）60％

【基本目標】

4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

数値目標	基準値(現状)	目標値
もし半田市から転出する場合、最も大きな理由は生活環境の改善であると思っている市民の割合	12.7%(2015年度)	5%(2019年度)
災害に対する備えができていると思う市民の割合	28.4%(2014年度)	50%(2020年度)

【基本的方向】

①畜産農家と住民との相互理解を深める中、臭気への環境対策を進め、良好な生活環境を確保します。

②災害への備えを充実するなど、安心して安全な生活環境づくりを推進します。

③文化の継承と新たな文化の創造を推進します。

④市民の日常的な健康づくりを促進するとともに、医療体制の充実に取り組みます。

【施策Ⅰ】畜産への理解促進と良好な生活環境の確保

①畜産ふん尿の臭気対策の推進

- 臭気の低減に向けた畜産ふん尿の処理対策を推進します。
- 畜産農家の敷地境界で臭気監視を実施し、原因者に対し適切な指導をします。

②畜産農業に対する理解の向上

- 生産者と消費者の距離を近づけ、地産地消を推進します。
- 畜産農家と住民との交流により、相互理解に努めます。

〔重要業績評価指標（KPI）〕

- 住宅地から 1km 以内の牧場の敷地境界上での臭気指数 15 以下の割合

基準値（2014 年度）80％ ／目標（2019 年度）100％

- はんだふれあい産業まつり入場者数 ※半田運動公園会場のみ

基準値（2014 年度）20,000 人／目標（2019 年度）21,000 人

【施策Ⅱ】 安心・安全なまちづくりの推進

①災害に備えた対策の推進

- 災害時に必要となる設備・資機材の充実を図ります。
- 安全な避難場所や避難路の確保を図ります。
- 市民と行政の双方向からの情報提供により適切な災害対応を行うことができるようネットワークの整備を図ります。

②地域防災活動の推進

- 住民への防災教育の充実を図るとともに、積極的な情報提供により、住民の防災意識の向上に努めます。
- 自主防災組織や防災ボランティアと連携し、各家庭での取り組みの普及に努めます。

③空き家対策の推進

- 倒壊の恐れのある建物の除却など、空き家の適正管理を進め、円滑な土地利用を促進します。
- 景観に優れた古民家の保存や活用を支援します。

④防犯対策の充実

- 夜間の防犯対策として、暗所への防犯灯の設置を進めるとともに、一戸一灯運動の推進など、地域や家庭での備えの充実に努めます。
- 青色防犯パトロールの推進などにより犯罪の抑止に努めます。

[重要業績評価指標 (KPI)]

- 防災リーダーの育成延べ人数 基準値（2014年度）186人 ／目標（2019年度） 280人
- 半田市内の刑法犯の発生件数（件／年）
- 基準値（2014年）1,322件 ／目標（2019年） 1,200件

【施策Ⅲ】文化の継承と創造の推進

①文化財の保存・伝承

○広く市民が郷土の文化財にふれ親しむことのできる機会の充実を図るとともに、文化財の適切な保存修理に努めます。

②文化の振興

○質の高い芸術や芸能等にふれる機会を充実するとともに、特色ある地域文化の発展と新たな文化の創造を推進します。

○創作活動・芸術文化活動への支援や発表の場の提供など、文化活動への参加機会の拡充を図ります。

○博物館や新美南吉記念館を活用し、郷土の歴史への理解と文化の振興に努めます。

〔重要業績評価指標（KPI）〕

○郷土の文化に関心を持っている市民の割合

基準値（2014 年度）52.1% ／目標（2020 年度） 65%

○文化施設（雁宿ホール・博物館・新美南吉記念館）利用者数（人／年）

基準値（2014 年度）419,844 人／目標（2019 年度）465,000 人

【施策Ⅳ】健康づくりの推進と医療体制の充実

①健康づくりの推進

- 日常的な健康づくりを促進するための環境を整備します。
- 生涯にわたってスポーツを実践できるように自発的なスポーツ活動を支援します。
- 健康にかかわる保健・福祉・医療などの機関やNPO、ボランティア団体との連携強化に努めます。
- 各種健(検)診の充実により、生活習慣病等の発症予防と重症化予防を推進します。

②医療体制の充実

- かかりつけ医制度の推進や休日・夜間診療等の充実を図るなど、安心して医療を受けられる環境づくりに努めます。
- 半田病院において、質の高い医療の確保を図るとともに、健全な経営の推進に努めます。

[重要業績評価指標 (KPI)]

- 健康づくりに取り組んでいる市民の割合

基準値 (2014 年度) 71.4% / 目標 (2020 年度) 90%

- 半田病院の累積欠損金

※累積欠損金とは、医療活動によって生じた毎年度の不足額(赤字額)を積み上げたもの

基準値 (2014 年度) 917 百万円 / 目標 (2019 年度) 0 百万円